

教科に関する調査の設問別の分析結果

平成 21 年度「基礎・基本」定着状況調査 6 1

6 次の 1～4 の会話文の () にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

1 A: What () Akiko and Ken do on Sunday?

B: They play basketball.

(注) Akiko アキコ(人名) Ken ケン(人名)

ア is イ are ウ do エ does

【出題の趣旨】

適切な語を用いた会話文の組立てができるかを見る。

【学習指導要領の内容・領域】

「書くこと」(イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

	正答率
本地域	25.0
広島県	21.3

解答類型	1	2	3	4	5	6	7	左記 以外	無解答
本地域の割合 (%)	25.0	12.5	31.6	30.0				0	0.7

この問題を解くために必要な力

- ・ 疑問文を作るときには、3人称が主語になる文の場合、一般動詞では、主語が単数形か複数形かで、do と does を使い分ける力。
- ・ 一般動詞がある場合、be 動詞で疑問文を作るまちがいに留意し、疑問詞を含め、正しい語順で疑問文を作る力。

誤答分析

- ・ 主語が、Akiko and Ken であるが、疑問文の作り方に、複数形の do と、単数形の does の区別を理解できずに疑問文を作っている。
- ・ また、動詞が、do であるが一般動詞の do と、助動詞の do の区別を理解できずに、be 動詞で、疑問文を作っている。

調査結果の分析をふまえた指導改善のポイント

平成 21 年度「基礎・基本」定着状況調査 6 1

【単元名】

調査結果からみる課題

【課題となる力】

疑問詞や助動詞の使い方を理解して、基本的な文のきまりに基づいて、正しい語順で疑問文を書く力。

【指導上の課題】

疑問文を作るときには、3 人称が主語になる文の場合、一般動詞では、主語が単数形か複数形かで、do と does を使い分ける指導が不十分である。

また、be 動詞を用いて疑問文を作るまちがいを留意させて、疑問詞を含め、正しい語順で疑問文を作らせる指導が不十分である。

指導改善のポイント

主語は何か、動詞は be 動詞か一般動詞かに注目し、正しく疑問文を組み立てる

【指導の工夫】

疑問文を作るときには、3 人称が主語の場合、単数形か複数形かを比較して、助動詞の働きを考えさせ、文の意味を考えて正しい語順で疑問文を作らせる。

コミュニケーションを図る活動の中で使用させることを通して定着を図る。

ウォームアップの指導の中で、What do (does) ~? を含む既習の表現を使って自己表現活動をさせることにより定着を図る。

Q&A What time did you get up this morning?
 What did you do yesterday?
 How did you come to school today?

絵や写真などを使って、人や物について尋ねるコミュニケーションを図る活動の中で使用させることを通して定着を図る。

・ What do you call this building?
 We call it Matsuda Stadium.

中学校第3学年 英語科学習指導案

単元名 PROGRAM 5 Working as a Volunteer

日時・場所 平成21年10月7日(水) 第5校時(14:00~14:50)
学年・学級 第3学年B組 少人数A 12名 少人数B 11名

単元について

本単元は、開発途上地域の発展に貢献するために、「シニア海外ボランティア」により、パプアニューギニアに日本語教師として派遣された齋藤健二先生の報告を扱っている。開発途上地域に赴いて行う活動だけではなく、国内においても、それらの活動を様々な奉仕・援助活動で中学生が関わり、支えることができることを学ばせたい。

言語材料は、「主語+動詞+目的語+to不定詞」および「主語+動詞+目的語+補語(名詞/形容詞)」

の第5文型である。到達目標は、「だれかに何かを頼むときの言い方ができるようにしよう(S1)」「人や物の呼び方などが言えるようにしよう(S2)」「だれかを『幸せにする』などと言えるようにしよう(S3)」である。

調査結果からみる課題

<誤答分析から>

「基礎・基本」定着状況調査の結果、6(1)の問題で地域の通過率が25.0%であった。この結果から、基本的な英語の文構造のしくみ、また、様式1,2から疑問詞や助動詞の使い方を理解して、基本的な文のきまりに基づいて、正しい語順で疑問文を書く力が十分に指導できていないことがわかった。

<指導上の課題>

主語+動詞+目的語(補語)~ の基本的な英語の語順の指導が不足している。
適切な疑問詞や助動詞を用いて、疑問文を表現する指導が十分でない。

指導改善のポイント

(1) 指導内容・指導方法について

第5文型を会話練習とドリル学習を関連付けるとともに、グループでの協同場面を設定する。ゴールタスクとして、上記の文法事項や教科書にある表現を使って、自分のボランティア体験や関心について英語で説明できる力を養う。

ペアワーク、グループワーク等を通して、生徒の活動量を増やし、生徒がわかる喜びや達成感

を感じさせたい。「学び合い」活動を取り入れ、基礎的な内容の定着と主部と述部のつながりを留意しながら、表現・説明する力を養う。

生徒同士が協力できる場面を多く設定する中で、机間支援の充実を図り、個に応じた支援を行う。

助動詞や疑問詞の使い方を他の場面でも理解・定着させるよう継続的な指導を行う。

(2) 「ことばの教育」との関連

第5文型の表現を主部と述部のつながりを留意しながら、表現・説明する話す力

第5文型の表現を主部と述部のつながりを留意しながら、内容によっては、適切な疑問詞や助動詞を用いて書く力

単元の目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・新しく学んだ表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語のつながりに留意しながら、伝えたいことを正しく伝えるように話すことができる。 ・語と語のつながりに留意しながら、内容に応じて、適切な疑問詞や助動詞を用いて正しく書くことができる。 	・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・海外でのボランティア活動について理解する。 ・第5文型の文構造を理解している。

指導と評価の計画

(全6時間)

次	学習活動(時数)	評 価					
		関	表	理	知	評価規準	評価方法
一	<ul style="list-style-type: none"> ・本課で学習する3つの用法を理解することができる。 ・キーワードになる新出語句を理解する。 					・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	観察

二	<ul style="list-style-type: none"> ask + 人 + to + 動詞 の用法を理解し，簡単な文を言ったり，書いたりできる。 				<ul style="list-style-type: none"> 用法や文構造を理解している。 主語を明らかにし，適切な動詞を用いて正しく書くことができる。 	ワークシート
三	<ul style="list-style-type: none"> call + O + C の用法を理解し，簡単な文を言ったり，書いたりできる。【本時】 				<ul style="list-style-type: none"> 用法や文構造を理解している。 適切な動詞を用いて正しく書くことができる。 	ワークシート
四	<ul style="list-style-type: none"> make + O + C の用法を理解し，簡単な文を言ったり，書いたりできる。 				<ul style="list-style-type: none"> 用法や文構造を理解している。 適切な表現を用いて正しく書くことができる。 	ワークシート
五	<ul style="list-style-type: none"> 本課で学習する3つの用法を使いながら，ボランティア活動について説明の文を書く。 				<ul style="list-style-type: none"> 文構造を理解している。 興味をもったこと，感動したことを適切に書くことができる。 	ワークシート
六	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動について説明の文を発表する。 				<ul style="list-style-type: none"> 新しく学んだ表現を用いて，積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 語と語のつながりに留意しながら，伝えたいことを正しく伝わるように話すことができる。 	観察

本時の学習

(1) 本時の目標

call A B を理解し、これを使って自分や友だちのことなどが表現できる。

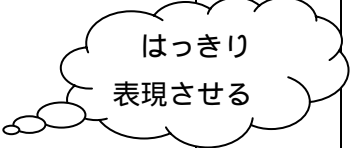
(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 ウォームアップを行う。			
<p>あいさつ Q & A (指導者と生徒個人)</p>	<p>・What do(does) ~ ? を含む 既習の表現を使って自己 表現活動をさせることに より定着を図る。</p>		後日小テ スト
<p>Q & A What time did you get up this morning? What did you do yesterday? How did you come to school today? What TV program did you watch yesterday? Who is absent today?</p>			
<p>「覚えてしまおう」 ・既習の構文を使って ペアワーク</p>	<p>・間違いをおそれずに大きな 声で活動ができる雰囲気を作 る</p>		
2 本時の目標を確認する。			
<p>(本時の目標) call A B の表現を理解し、これを使っていろいろな人や物について表現 できるようになる。</p>			
<p>「名前をつけよう」 グループワーク ・犬(プリント)に自分で名前をつけ る。 ・call A B を使って犬の名前を発表す る。グループで自分の前に言った人 の犬のことと言う。最後の人はグル ープ全員の犬の名前を言う。 「なんと呼んでる？」(写真を見せて) ・What do you call this building? We call it Matsuda Stadium ・Interview Game 「答えをさがせ」</p>	<p>・語順に注意させて定着を図 る。グループに聞こえるよ うに大きな声ではっきり言 う。他のメンバーはしっか り聴く。 ・What を使った疑問文の定 着を図る。答えの目的語の 代名詞に注意させる。</p>	<p>用法や文構造 を理解してい る。</p>	<p>活動観察</p>

はっきり
表現させる

しっかり
教える

<p>答えが1問だけのっているワークシートを配る。情報を交換する形でインタビューし、すべての答えを書き込む。</p> <p>「写真の説明文を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つ以上の英文で写真の説明ををする。必ず call A B の文を入れる。 <p>(例) His name is Suzuki Ichiro. We call him Ichiro. He has played baseball in America for nine years.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いた文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず英語でたずね、英語で答える。 ・書くことにより構文の理解を深めさせる。 ・机間巡視により、文章づくりの支援を行う。 ・説明文を1文だけで終わらせない。既習の英文も使うことにより繰り返し学習を行う。 ・間違いをおそれず、堂々と発表させる。友だちの発表をしっかりと聴かせる。 	<p>用法や文構造を理解している。</p> <p>適切な動詞を用いて正しく書くことができる。</p>	<p>活動観察</p> <p>ワークシート提出</p>
<p>3 本時の学習を振り返る。</p>			
<p>本時の学習を通して表現できるようになったことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな事でも肯定的評価をして達成感をもたせる。 		
<p>4 次時の学習内容を確認する。</p>			
<p>make の別の使い方を学習することを予告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単語調べをしてくることを指示する。 		



検 証

検証の方法

来週の間接試験で、本単元の評価問題として出題する。

英作文

「あなたの友達は、あなたを何と呼びますか。」

「彼らは、私をケンと呼びます。」

What do your friends call you?

They call me Ken.

2学期末に、調査問題として出題をする。今年度実施した結果と比較をする。

次の1～4の会話文の()にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

A: What () Akiko and Ken do on Sunday?

B: They play basketball.

(注) Akiko アキコ(人名) Ken ケン(人名)

ア is イ are ウ do エ does

検証結果

について

「ア 3名 イ 7名 ウ 23名 エ 10名」という結果がでた。正答率は54%であった。

について

本地域の集約結果

	ア is	イ are	ウ do	エ does	無回答	合計人数
合計	72	49	67	58	3	249
%	28.9%	19.7%	26.9%	23.3%	1.2%	100.0%

分析・考察

について

課題の克服に向けて、ペアワーク活動で活動の回数を増やして定着を図った。課題の問題と、他
英語. 8

の基本文の定着に効果が見られた。

しかし3人称・複数形に対応した適切な助動詞を使えない生徒が23%、一般動詞の用いられた疑問詞を使えない生徒が23%いるという課題がある。

について

25.0%から、26.9%に上昇した。(1.9ポイントの上昇)

「語と語のつながりに注意して表現する指導」、「主語は何か、動詞は be 動詞か、一般動詞かに注目し、正しく疑問文を組み立てる」という課題をもった授業実践ができた。